

ティーチング・ポートフォリオの作成と更新に対する組織的な支援の初期検討

Initial Study on Organizational Support for Writing and Updating Teaching Portfolios

高井 久美子^{*1}, 渡辺 博芳^{*1}, 溝口 佳宏^{*1}
 Kumiko TAKAI^{*1}, Hiroyoshi WATANABE^{*1}, Yoshihiro MIZOGUCHI^{*1}
^{*1} 帝京大学
^{*1}Teikyo University
 Email: kumiko@ics.teikyo-u.ac.jp

あらまし：近年，高等教育においてティーチングポートフォリオ（TP）が広がりつつあり，TPの組織的な導入が増える可能性がある．本研究は組織的にTPを導入する状況において，教員によるTPの作成・更新に対する支援の体系を提案することを目的とする．その初期段階として，前提とする状況設定について検討し，教育活動とTPとの関連，組織的な導入におけるTPに関連するアクターを洗い出した．

キーワード：高等教育，ティーチング・ポートフォリオ，ファカルティ・デベロップメント

1. はじめに

ティーチング・ポートフォリオ（TP）は「自らの教育活動について振り返り，自らの言葉で記し，多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録」⁽¹⁾である．また，TPを作成するだけでなく，更新することの意義も指摘されている⁽²⁾．近年，TPは高等教育において広がりつつある．実際にファカルティ・デベロップメント(FD)の一環でTPを作成してWebなどにより公開している事例や昇任審査の際の資料として利用される事例が散見される．今後，組織的・全学的にTPを導入するケースも増える可能性がある．

組織的に導入をする際には，TPを作成・更新する教員が支援を必要とするときに，適切な支援を受けられることが重要だと考えられる．これは，たとえば，学習管理システム(LMS)を全学的に導入する際に，教員や学生への支援が行われるのと同様である．こうした支援は，組織内の支援部署が実施したり，ユーザとしての教員同士・学生同士で相互に行われたりする．

そこで，我々は組織的にTPを導入する状況を想定して，TPの作成と更新に対して，どのような支援が必要となるか，どのような支援が可能なのかを明らかにして，支援の体系を提案したいと考えている．本発表では，初期の検討として，本研究が前提とする状況設定について報告する．

2. 研究の方法

本研究全体としては，次の手順で進める．

(1)本研究が前提とする状況設定を整理する．

(2)その状況におけるTPの作成と更新の過程をイメージし，TPを作成した教員へのヒアリングなどを通して困難な作業を特定する．

(3)それぞれの作業について可能な支援を挙げる

(4)TPの作成・更新の過程における支援の体系を提案する．

(5)具体的な支援の実装方法を検討する．支援の実装方法としては，支援部署による支援，教員ボランティアグループによる支援，あるいは支援用情報システムの開発などが考えられるので，これらを視野に入れて検討する．

まず，前提となる状況設定のために，TPの構成要素を確認し，TPと日常的な教育活動の関連について整理をした．その上で，TPの組織的な導入において想定されるアクターを洗い出した．アクターは，TPに関して特定の目的や役割を持つ個人や組織を表す．

3. ティーチング・ポートフォリオの構成要素

一般に，TPはA4で10ページ程度のTP本文(厳選された記述)と根拠資料(エビデンス)の2つから構成される．本研究ではTP本文に含まれる構成要素を以下のように表現する．ただし，これらはTPの本文の章構成自体ではない．

- 教育の責任
- 教育の理念
- 教育の方法
- 教育の成果
- 今後の目標

実際には，TPを作成する際に特定の形式を強制されることはなく，作成者が自由な構成をとることが多い．複数の書籍やWeb上で公開されているTPを調査したところ，表現は異なるものの，上記の要素が含まれていた．たとえば，「教育の理念」は「授業哲学」と表記されたり，「教育の目的」や「対象とする学生像」を別に記述したりするケースもあった．また「教育の方法」と「教育の成果」の部分は，担当する科目毎に「授業実践事例」としてまとめるケースや，「教育の成果」を「学習の成果」と「学生からの授業評価」などに分けてまとめるケースなど，多様である．いずれにしてもこれらのケースでは内容としては上記に対応する項目が含まれている．

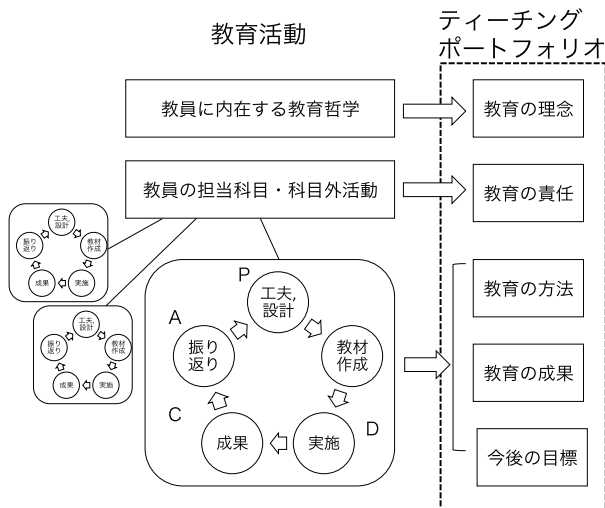


図1 教育活動とTP本文の関連

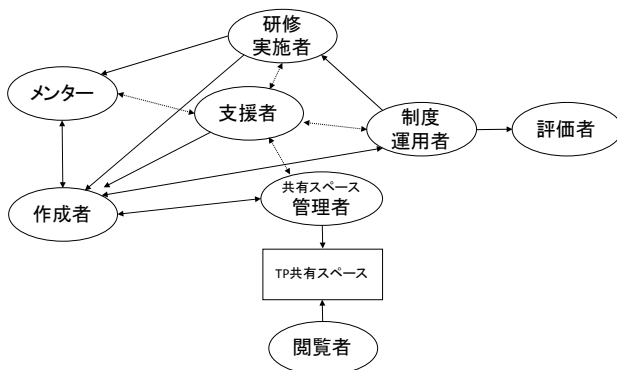


図2 TPに関連するアクター

4. 教育活動とティーチング・ポートフォリオの関連

前述のTPの構成要素を前提とした上で、我々は日常的教育活動とTP本文の関連を図1のように対応付けた。

TPの「教育の理念」は教員に内在する教育哲学を外化して記述したものであり、「教育の責任」には担当する科目や割り当てられた科目外活動などが記述される。教員はそれらの科目や科目外活動に対して、日常的にPlan-Do-Check-Actionのサイクルに沿った教育活動を行っている。大まかに言えば、これらの活動の工夫・授業設計、教材作成、授業実施から「教育の方法」、成果の確認により「教育の成果」、振り返りから「今後の目標」の各項目に記述する内容を選考する。ただし、「今後の目標」は各科目と言うよりは「教育の責任」の範囲全般に関して記述されることが多い。

5. ティーチング・ポートフォリオに関連するアクターとその関係

以下がこれまでの検討によって洗い出したTPに関連するアクターである。図2にはその関連を示す。

- **作成者**：TPを作成・更新する教員。
- **メンター**：TP作成者に対するメンター。TP作成研修や更新研修において、作成者を担当するメンターを想定している。
- **制度運用者**：組織的な導入においてTP活用の制度を運用する部署、あるいは係。
- **研修実施者**：TP作成研修や更新研修を実施する部署、あるいは係。
- **共有スペース管理者**：作成したTPを教員間でお互いに参照し合うための共有スペースの管理者。TPを教育改善のために活用する際には、たとえば、作成したTPをWebで学内外に公開するなど、TPの共有スペースが必要である。
- **閲覧者**：共有スペースを通して他の教員が作成したTPを閲覧する個人。教育改善に役立てるため、あるいは自分がTPを作成する際に参考にするために参照する教員などが想定される。
- **評価者**：提出されたTPを評価する主体。昇任人事の際にTPが利用されるケースにおいて存在するアクターである。
- **支援者**：作成者を支援する主体。支援部署、同僚教員、支援システムなどが想定される。TP作成・更新研修におけるメンターとは異なり、TP作成・更新への動機付けから日常的な教育活動におけるTP作成・更新の準備作業、ヘルプデスクなどの役割を想定している。本研究ではこの支援者の支援活動、あるいは支援機能を検討する予定である。

組織的な導入において、提出されたTPを共有しなければ、TP共有スペース管理者、閲覧者は存在しないし、昇任人事での審査資料としてTPを使わなければ、評価者は存在しない。また、一般には、研修実施者、共有スペース管理者、支援者の役割は制度運用者となる部署が担当すると予想される。

6. おわりに

本稿では、TPの組織的な導入における教員への支援の初期的な検討結果として、組織的な導入の状況設定について述べた。今後、TPの作成と更新における困難な作業を特定し、支援の体系を検討する予定である。

なお、本研究の一部はJSPS科研費JP16K01077の助成を受けた。

参考文献

- (1) 栗田佳代子：“ティーチング・ポートフォリオとは”，評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書「日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題—ワークショップから得られた知見と展望—」，大学評価・学位授与機構，pp.1-6（2009）
- (2) 皆川晃弥：“ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド”，近代科学社（2012）